

第7回 HiSoPra* 研究会プログラム

2024年3月17日(日) オンライン開催

13:30 開会

第1部 研究発表

13:35-14:10 研究発表1 司会 堀江 薫 (関西外国語大学)

多田知子 (青山学院大学)

「わけ(だ)」文法化の経緯」

14:15-14:50 研究発表2 司会 椎名美智 (法政大学)

青木 輝 (慶應義塾大学大学院生)

「英語の歴史におけるトートロジー — その慣習性と使用に着目して」

14:55-15:30 研究発表3 司会 椎名美智 (法政大学)

高村 遼 (立正大学)

「間主観的な機能から談話を構成する機能へ — 談話標識 well の共時的分析から」

休憩

第2部 ラウンドテーブル

15:45-17:10

「歴史社会言語学・歴史語用論研究の動向と文献紹介」

司会 堀田隆一 (慶應義塾大学)

話題提供者 小野寺典子 (青山学院大学)

「談話標識の通時的研究の動向」

話題提供者 東泉裕子 (東洋大学)

「漢語の歴史社会言語学・歴史語用論」

話題提供者 家入葉子 (京都大学)

「Absolute Infinitive についての論文集の紹介」

話題提供者 高田博行 (学習院大学)

「ドイツ語圏における歴史社会言語学・歴史語用論の動向」

17:10 閉会

研究会へのご参加に際して

Zoom によるオンライン開催となりますので、事前の参加申し込みが必要です。3月14日(木)までに、以下の URL からお申込みください。3月15日(金)に Zoom のミーティング URL をお知らせします。

<https://bit.ly/3P6mu1H>

研究発表 要旨

「わけ（だ）」文法化の経緯」

多田知子（青山学院大学）

2000年ごろから隆盛になった複合辞研究により、現代日本語には多数の助動詞相当の複合辞が存在することが知られている。「わけ（だ）」もそのひとつであり、「のだ」「はずだ」などとの比較、使い分けにおいて論じられることが多い。文末で助動詞相当の働きをする「わけ（だ）」には当該事態に対する話し手の当然の事態であるという認識を表す型と当該事態はこのような事態であると言い換える型があり、どちらも実質名詞「わけ」の語義からは逸脱している文法化の例とみなせる。CHJ コーパスを用いて「わけ（だ）」の文法化の経緯を検証する。「わけ（だ）」は原因結果の複文構造を基本として考えられる場合が多いが、むしろ複文で使われるのは後進的な使い方であること、2つの型は直接的な先後関係にはないが、言い換え型の方がやや早く現れることを述べる。

「英語の歴史におけるトートロジー — その慣習性と使用に着目して」

青木 輝（慶應義塾大学大学院生）

Boys are boys. といった、be 動詞のコピュラ構造の前後に同一語句が使用される言語表現をトートロジーと呼ぶ。トートロジーは、一見すれば「A = A」以上を伝達しない無意味な表現であるように考えられるにもかかわらず、それでもなお解釈が可能である点に関心が集まり、共時的にはさまざまな理論が提唱されてきた。

そのうちのひとつには慣習性に焦点を当てた研究 (Wierzbicka, 1987) なども存在し、ここでは、歴史的にある特定の形式に特定の解釈が備わってきた可能性が指摘されている。ただし、重要な点は歴史的なトートロジーの使用については、歴史言語学・英語史の視座からは発表者の管見の限り先行研究が存在せず、実際にどれほどトートロジーの解釈に慣習性が存在するかについては不明な点も多いということである。

こうした状況に鑑みて、本研究発表は、いまだ不明点の多いトートロジーの歴史的な使用の実態を明らかにしつつ、その慣習性の有無や構築のプロセスを検討することを目的とする。

「間主観的な機能から談話を構成する機能へ — 談話標識 well の共時的分析から」

高村 遼（立正大学）

Traugott (1982) によれば、意味は propositional > textual > expressive の順に変化すると考えられています。最後の expressive はのちに subjective と intersubjective に細分化されました。一方で、この順番に対しては、これまでいくつか「反例」があげられています。実際、通時的な研究によって、well は expressive > textual に変化したと明らかにされています。今回の発表では、なぜそのように考えられるのかについて、well の expressive（厳密にいうと intersubjective）と textual の関係性を共時的なデータから見ていきたいと思えます。まず、textual が何を指すのかについて整理したあとで、well の textual には intersubjective な要素があることをお伝えできればと考えています。